科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ	対象学年・時期	2年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
講義概要	ディプロマポリシー2、5に基づく。地域・在宅看護の対象は地域・在宅で暮らす療養者・家族である。看護師には対象の生活や思いを理解し、必要な医療を生活になじませ、自立を支援するための介入が必要となる。 本科目では、地域・在宅看護概論で学んだ、地域・在宅の人々中心の看護介入をするために必要な基本的な理念や倫理を学ぶ。また、対象がＱＯＬ(生活の質)についての意思に沿って暮らせるために必要な看護介入や援助を考える力を身につける。		
講義形態	講義、演習(グループワーク)		
学習目標	１．地域・在宅看護に関する基本理念が理解できる ２．地域・在宅看護における倫理的な看護活動が理解できる ３．地域・在宅看護における看護介入期の看護の特徴と援助が理解できる		
学習内容 (授業計画)	1回目：地域・在宅看護を展開するための基本理念 セルフケア理論、アドボガシー、エンパワーメント、自己効力感、パートナーシップ、ストレングス、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション 2回目：地域・在宅看護における倫理 意思決定・サービス提供者の権利の保証 3回目：地域・在宅看護介入期の特徴について 4回目：地域・在宅看護介入期の特徴　演習①　…　グループワーク 準備期・移行期・安定期の看護：ストーマ管理を開始する療養者 5回目：地域・在宅看護介入期の特徴　演習②　…　グループワーク 急性憎悪期の看護：脳梗塞　誤嚥性肺炎の憎悪 6回目：地域・在宅看護介入期の特徴　演習③　…　グループワーク 終末期・看取りの看護：心不全憎悪・老衰・がん終末期 7回目：まとめ 8回目：終講テスト		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	当該箇所をテキストで読み授業に臨んでください。 その他の事前学習は必要時授業中にお伝えします。 シラバスに記載されている疾患の病態生理について復習して臨んでください。		
評価基準と 評価方法	筆記試験		
備考			